

☆ 秋季東京都高等学校野球大会 1次予選 結果 ☆

9月11日(土) 1次予選 0-7 (7回コールド) **敗退** vs 国士舘高校 @国士舘高校グラウンド

試合経過

2回までお互い無得点で進んだ3回裏、四球をきっかけにして2アウト2塁から左中間を破る3ベースヒットを打たれて先制点を奪われる。4回裏は先頭バッターに2ベースを打たれたところで投手交代。しかし、バントの野選とタイムリーヒット、セーフティスクイズを決められて3失点。0-4となる。5回裏にもタイムリーを浴びて0-7。葛飾野の攻撃は4回、5回に得点圏にランナーを進ませるもあと1本が出ず。7回も1アウト2塁のチャンスを作るも後続が続かず、7回コールドで敗退となった。

夏休みの中盤から少しずつ積み上げてきた成果が見られるようになり、バッテリーを中心に失点が少なくなってきました。練習試合では引き締まった試合が続くようになり、昨年に甲子園に出場した国士舘高校にも気合い十分に挑みましたが、国士舘高校のしっかりとした守備力と硬軟織り交ぜた攻撃力に歯が立ちませんでした。

しかしながら、国士舘高校との対戦は、多くのことを学ぶことができ、自分たちの立ち位置と足りない部分をしっかりと確認することができました。この敗戦を最大限生かすために、コロナ禍でままならない練習を全員で高い意識で工夫し、下校後の自宅での過ごし方を見直して(自主練・学習・日誌) 来年夏の目標達成に向けて努力を続けます。

☆ 第103回全国高等学校野球選手権大会 東東京大会 結果 ☆

7月10日(土) 2回戦 8-1 (8回コールド) **勝利** vs 東洋高校 @江戸川区球場

東洋高校との試合内容や写真は「高校野球ドットコム 葛飾野」で検索していただくとご覧になれます。

7月18日(日) 3回戦 10-13 **敗退** vs 城北高校 @江戸川区球場

試合経過

1回裏、いきなりの5失点からスタート。それでも2回表に5番富森(3年)のヒットからチャンスを作り、2アウト満塁から1番大森(3年)のタイムリーで2点を返す。しかし、城北高校の打線も活発でその裏に2点を返されて2-7となる。この重い雰囲気を変えたのが、4番の一発であった。3回表、先頭の3番三澤(2年)のヒットのあと、4番田中(3年)がレフトへのホームランを放つ。この一発で空気が一変し、5番富森、6番佐藤(3年)の連打と7番島田(3年)の四球で満塁とし、8番幸村(3年)のタイムリーや2番山田(3年)の犠牲フライなどで7-7の同点とする。エー

☆ 葛飾野高校卒業の先輩 **上武大学硬式野球部 ブライト健太選手**が大活躍！！ ☆

葛飾野高校野球部を卒業し、現在上武大学硬式野球部(関甲新学生野球リーグ)4年生に在籍するブライト健太選手が今春のリーグ戦から大活躍をし、一躍ドラフト候補として注目を浴びています。

50m5秒8の俊足、遠投100mの強肩と高い身体能力がありながらも3年秋まではケガなどもあり結果を残すことができませんでした。しかし、今春のリーグ戦で3本塁打は放ち優勝。その後の全日本大学選手権大会で2本塁打と活躍しました。

以下は『4years#大学スポーツ』からの引用です。

「今春のリーグ戦でレギュラーをつかむと、50打数19安打、打率.380(リーグ2位)、12打点、3本塁打、6盗塁などの活躍で優勝に貢献。最高殊勲選手賞、最高出塁率打者(出塁率.483)、ベストナインを獲得した。高い身体能力を誇る右打ちの強打者にスカウトは熱視線を送る。

全日本大学選手権大会では、1回戦の西日本工業大戦でドラフト上位候補の左腕・隅田知一郎(4年)の143kmの速球を左中間スタンドへ運んだ。2回戦の桜美林大戦では3安打1打点。準々決勝の東農大北海道オホーツク戦ではソロホームランを含む2安打2打点。敗れた準決勝の慶應義塾大戦でも2安打1打点。1回戦は4番、2回戦は1番、準々決勝は3番、準決勝は4番と打順を変えながら、4試合すべてで安打、打点を記録した。谷口英規監督も「打順を変えても自分の力を発揮できる選手」とブライトに全幅の信頼を置いている。」

ブライト先輩の今後の活躍、そして、本校二人目のプロ野球選手が誕生するのか楽しみです！

ブライト先輩、応援しています！

更なる詳細は「上武大学 ブライト」で検索してみてください！

☆ 野球部の現在(4月下旬の記事) ☆

昨秋の悔しい敗戦から、自分たちの足りない部分、鍛えるべき部分を確認し、9月~11月は練習試合と並行しながら日々の練習に取り組んできました。10月に入ると投手が安定し、テーマとしている「後半の葛飾野」「逆転の葛飾野」を見せられる試合が少しずつ増えてきました。それでも失敗することは多く、そのたびに原因を考え、平日の練習に活かしてきました。



12月に入り、バッテリー力と攻撃力の向上を目指して冬の練習に取り組んでいた矢先、新型コロナウイルス感染拡大の影響で1月から活動ができなくなりました。2か月以上、全員での練習はできませんでしたが、各自で「日本一の自主練」を目指して自分との勝負に臨んできました。その土台となったのが「野球日誌」です。この日誌で自分の心と向き合い、今、出来ることは何か？ その出来ることを全力でやっているのか？ を自問自答してきました。その日誌をSNSを通じて読み合い、共有しました。さらに、自分のバットスイングや投球フォームの動画をお互いに研究し合って、全員でアドバイスを送るなど工夫をしてきました。しかしながら、心待ちにしていた春季大会一次予選は中止となってしまいました。

このように部活動自粛期間を乗り越え、ようやく3月下旬から練習再開となりましたが、練習試合7試合を行ったあと4月25日から緊急事態宣言を受けて、現在、活動ができない状況です。

高校生には時間がありません。しかし、目標に近づくには今冬と同じように「今できることに全力で取り組む」ことしかありません。早く活動再開ができることを祈って「日本一の自主練」に日々取り組みます。そして、野球だけではなく、高校生の本文である「学業」そして「下校後の生活」にもしっかりと取り組み、『文武生活三刀流』を実践していきます。

☆ 新入部員 ☆

今年も多くの上級生が入部しました！ 選手18名、マネージャー3名の計21名です。これにより部員は51名となりました。部員数が多くなればなるほど、「チームが1つになる」ことは難しくなってきます。全員が同じ方向を向いて夏の大会を迎えられるよう、上級生の手腕が見ものです。今は上級生が1年生に「日誌」の指導を行っています。今年3月に卒業していった部員も「日誌で人間的に成長できた」と語っていました。今後の1年生の成長、そしてチームの成長に期待です。

☆ 大学での活躍を期待！ ☆

令和3年3月に卒業した 横山 凱己 君(捕手)が中央学院大学に入学し、硬式野球部に入部しています。甲子園出場経験のある選手たちにもまれながら、足と肩のセールスポイントを生かして、四年間成長し続けてほしいと思います。

また、令和4年3月に卒業した富森 椋介 君(捕手)も青森大学の硬式野球部に入部し、寮生活をしながら、野球に没頭しています。強打と正確なスローイング、鍛えられたストッピングを武器に活躍を期待しています。

二人ともがんばれ！！

☆令和2年 秋季東京都大会 一次予選の結果☆

9月13日(日) 1回戦 vs 中大付属高校 @堀越球場 13 - 4 (8回コールド)で勝利!

20日(日) 代表決定戦 vs 大森学園高校 @堀越球場 5 - 6 × 延長10回サヨナラで敗戦

夏の東京都大会ベスト4の大森学園に2点を先制されるも、5回に3点を取って逆転、8回にも2点を加え5-2としました。

しかしその裏に守備の乱れから同点に追いつかれ、延長戦へ。10回裏に2アウト満塁からセンターへ弾き返され、あと一步のところまで勝利を逃しました。

新チームがスタートしてから約1か月半。心技体ともに大きな成長を感じさせましたが、この悔しい負けを、
「文武生活三刀流」と「球際」をテーマに、次の大会へつなげていきます。

☆第102回全国高等学校野球選手権大会 東京都代替大会 結果☆

7月27日(月) 1回戦 @大田スタジアム vs 城西大城西高校 ● 1 - 5

長梅雨がまだ明けないこの日、ようやく初戦を迎えることができました。しかしながらその後ベスト16に進出した城西大城西高校に敗れました。初回、先制点許すも最少失点で踏ん張り、一時は同点に追いつきました。しかし、中盤に失点。攻撃の方は2人の投手を打ち崩すことができませんでした。

翌日、引退となった3年生たちが下級生へ向けてさまざまな想いを話してくれました。「時間が過ぎるのがとても早かった。1日1日の行動を大切にしてほしい」「秋に心の弱さで負けた。それをどうすれば克服すればいいかをずっと考えてきた。でも克服できたとは思っていない。これからも課題」「野球で人間的に成長できた。考え方、心が変わった」「自分はヘタだった。失敗もたくさんあった。やってきたことが報われなかった。でも失敗を考えずがむしゃらにやるのが大切なことと学んだ」など、後輩たちに素直で貴重な言葉を残してくれました。とりわけ、ほとんどの3年生が口にしていたのは「日誌で人間的に成長できた、変わった」ということでした。3月からの休校中も全選手が、毎日欠かさず日誌を書き続けてきました。学校もない、練習も練習試合もできない、大会もなくなった、甲子園もなくなった……目標をいつも心にもちながらも、やりたくてもできない苦しい想いと向き合って、自問自答しながら、仲間に向けながら書いてきました。苦しさの先には「今できることを最大限やるしかない」という境地になり、日々、各自が自立して学習、技術練習、トレーニング、研究などを重ねて過ごしてきました。このような自立した行動にたどり着いた土台が「日誌」だったと語ってくれました。

大会には負けてしまいましたが、2年4か月間の中で勝利以上に尊いものに気づき、人間的に成長した3年生。今後の進路へ向けての取り組みに期待するとともに

に、卒業後、社会人、さらに親となったときに周囲の方々から信頼され、期待される人生を歩んでいくことを願っています。

☆高校野球ドットコムに取り上げていただきました☆

本校野球部では、毎日の練習以外に家庭で「日誌」を書いています。

この取り組みが令和2年5月、『高校野球ドットコム』に掲載されました。令和元年の7月から本格的に始めましたが、この臨時休校期間も続けています。興味のある方は、「高校野球ドットコム、葛飾野、日誌」等で検索してください。

☆地域の小学生と交流会を行いました☆



令和2年2月11日、本校グラウンドにおいて、葛飾区の少年野球チーム「アポロバンビ」さんとの交流会を行いました。1年生から5年生までの選手20名と監督・コーチの方々、保護者の方々に来校していただきました。一緒にウォーミングアップや追いかけっこ、キャッチボール、守備練習、バッティング練習、などを笑顔で楽しみました。高校生たちが教えると嬉しそうに、そしてそれをすぐに実践する小学生たちの姿にびっくりしました。

後半は本校の選手たちが目の前でボール回し、ノック、フリーバッティングを始めると、動きやボールの速さ、打球の飛距離に歓声を上げてくれました。

わずか半日でしたが、「アポロバンビ」さんに大変喜んでいただき、また、私たち葛飾野高校野球部にとっても、改めて野球の楽しさや伝えることの難しさなど、学ばせていただくことがたくさんありました。小学生たちの、あの楽しそうな生き活きとした笑顔が忘れられません。これからもできれば高校、それ以上ずっと野球と続けてもらえたら嬉しいです。

「アポロバンビ」さん、本当にありがとうございました。

今後も冬季を中心にこのような活動を、規模を広げて続けていければと思います。

